

アピール文「事業仕分けにおいて『地方移管』とされた事業について」の記者会見概要

【日時】平成21年11月27日(金) 15:00~15:30

【場所】岐阜県庁4階 特別会議室

【出席者】古田一括交付金プロジェクトチームリーダー

(古田プロジェクトチームリーダー)

今日は、知事会の一括交付金プロジェクトチームのまとめ役という立場で、この場所で会見をさせていただくということでございますけれども、ちょうど例の行政刷新会議の仕事、事業仕分けですが、これが今日終わるわけでありまして、延べ9日間で447事業について行われてきたということで、ご案内のとおりでございますけれども、この事業仕分けについてはいろいろな見方があるわけでございます。

お手元にお配りしましたように私の立場で申し上げなければならないのは地方移管ということございまして、事業仕分けの中で例えば国土交通省の下水道事業ですとか、まちづくり関連事業ですとかかなり規模の大きいものがございまして、実施は各地方自治体の判断に任せるという結論になっているわけでございます。この「判断に任せる」ということが一体どういう意味なのか、どういうことになるのか、ということについては必ずしも議論がなされておられません。むしろ私どもとしてはこの帰趨について注目をしているわけございまして、お配りした紙にもございますように、まず地方自治体が地域の実情を踏まえて主体的に事業を実施するということが自体は大変結構なことだと思っております。まさに地域主権の観点からは望ましいと思っております。ただ地方の判断に任せるということが、どういう仕組みで行われるのかということについて、それぞれひとつひとつの予算項目についてきちんと制度設計をするのか、それぞれの予算項目について趣旨とかお金の使い方や配り方をひとつひとつ詰めていかれるのか、束ねるような格好で一括交付金みたいなことでおやりになるのか、どういう地域にどのようにして必要な財源が行き渡ることかということが大事でございまして、この点について私どものプロジェクトチームでも大変不安視する知事さんたちが多いわけございまして、その点について十分な留意をお願いしたいというのが今回の趣旨でございます。

それから原口大臣がつとにおっしゃっておられまして、また鳩山総理も一昨日言われましたけれども、一括交付金というものを具体化していきたいということも民主党政権のマニフェストに掲げられているわけでございます。これは平成23年度から実施したいということが総務大臣のお考えのようでございまして、これはもう少し時間がありますので、しっかりとした概念、配分方法、制度設計、金額、いろいろな面でこれから来年に向けてずっと議論をしていきたいと思っております。当然、こういう議論については国と地方との協議の場が出来るわけでありまして、その1つのテーマとして議論をしていったらいいのではないかとこのように思っております。そこで1から4までございますけれども、今回、地方移管ということに関して申し上げたいことは、1つは地方移管ということの意

味を明らかにしていく必要があるのではないかということです。2番目が財源の問題について、事業実施に支障がないように確実な対応をしていく必要があるのではないか、少なくとも現行補助金をきちっと確保できるような仕組みを考える必要があるのではないかということ。3番目が補助金を頂くときに、補助金を頂くということは地方は補助裏の負担が当然あるわけで、この負担については地方債とか地方交付税で、財源措置をされているわけございまして、この部分も引き続ききちんとした財源措置を講じてもらいたいということ、これが3番目です。それから4番目は、この地方移管の趣旨に鑑みて、国の関与を可能な限りやめて地方の自由裁量で実施できる仕組みとしていただきと、こういうこととでございます。これらの点については私ども9人の知事のコンセンサスを得まして、また全国知事会長の了解も得まして発表させていただくということとでございます。次のページに9人の知事のメンバーがございしますが、こうしたメンバーで議論をさせていただいております。

(記者)

今回のこのアピールですが、これは今後どのようなスケジュールで行われますか。

(古田プロジェクトチームリーダー)

今日こういう所で発表させていただいて、その上で来週できれば関係大臣あるいは関係省の政務3役にお会いをして、知事会のプロジェクトチームの名において要請をするということを申し上げられないかと思っております。今後進められていく予算編成の中で、項目的にはこの地方移管とされた分がかなりあるんですよ。ひとつひとつどのようにやっていくのか、それぞれ所管省庁、そしてまた総務省とも実質的な議論をしていかなければいけないということとでございます。まずは私どものこの思いというか基本的な考え方を来週にも持っていきたいと思っております。

(記者)

これは他のプロジェクトチームもそれぞれのリーダーがそれぞれの場で、アピールをされているということでしょうか。

(古田プロジェクトチームリーダー)

それぞれの必要に応じてといいますか、タイミングに応じてということなので、一斉にやっているわけではありません。私どもはたまたま事業仕分けが終わったタイミングで、この事業仕分けの中で少なからぬ項目が地方移管、地方の判断に任せるという評価になっているものですから、これについてその方向でもしやるとすれば、少なくともこの4つの点について配慮しながら制度設計をやってもらいたいし、当然地方ともよく相談をしていただきたいと、こういうことを思っております。

- 以上 -